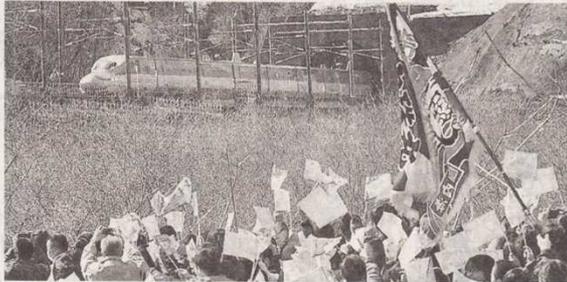
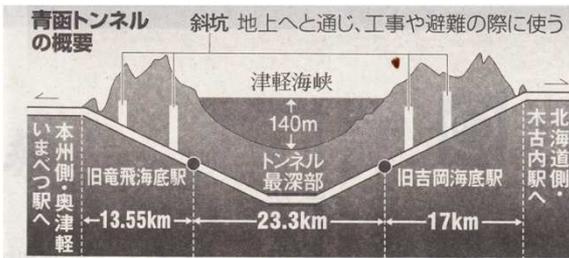
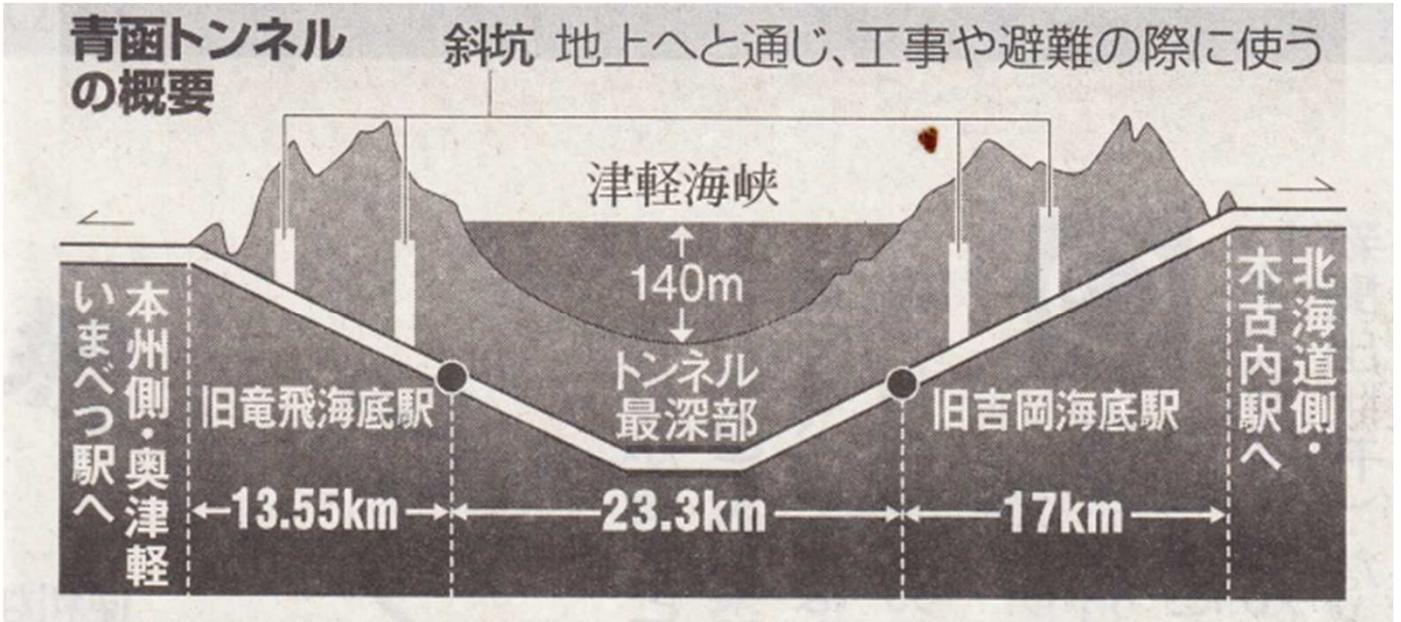


# 北海道新幹線 世界最長の海底トンネルを通る

全長が約53.9km

2016年3月27日



青函トンネルを抜け、北海道を走る新幹線を見て感極まる角谷敏雄さん。26日午前7時17分、北海道側に出てきた「はやぶさ1号」。同午前10時37分、いずれも北海道知内町、恵原弘太郎撮影



62年前の惨事を知る人は少なくなってきた。「新幹線開業の原点に多くの犠牲があったことを忘れず、安全な運行を続けてほしい」と話す。若松聡 磯崎こす恵

自身も国鉄に就職し、青函連絡船の甲板係を務めた。88年の連絡船廃止後は、JR函館支社に勤めた。92年の退職まで、盛岡まで延びていた新幹線を東京方面への出張でよく使った。「もう少しで北海道だ」と期待していた。

26日に開業した北海道新幹線は、世界最長の海底トンネルを走る。青函トンネルの工事に関わった人たちは、念願だった開業を感慨深く迎えた。▼1面参照  
「ようやく夢がかなった。長かった」。26日朝、北海道知内町の展望台を訪

れた角谷敏雄さん(81)は、本州からの下り一番列車を見て、涙した。  
1965年、旧日本鉄道建設公団に入り、青函トンネルの掘削工事に携わった。気温30度超、湿度は90%を超える息苦しい作業場。落盤や出水に作業は何

度も阻まれた。着工から24年かけて88年に開通。事故で作業員34人が死亡した。「北海道に新幹線を迎えたよう」が同僚との合言葉だった。この10年余り、青函トンネル記念館(福島町)のボランティアガイドとして、来館者に「トンネルマ

## トンネル通過 万感 元作業員「みんなの苦労実ったよ」

北海道新幹線

ンが抱えてきた苦しさを悲しさの上に新幹線があるんです」と伝えてきた。  
自身もじん肺や難聴の後遺症がある。事故で親しかった同僚3人を亡くした。「ようやくみんなの苦労が実ったよと伝えたい」  
青函トンネルは、54年に津軽海峡で1430人の犠牲者を出した青函連絡船の「洞爺丸台風事故」をきっかけに、64年に着工した。北海道函館市の武山和雄さん(70)は「おやじもきつと喜んでいる」と言う。高校3年生の時、転覆した連絡船で機関部員だった父常雄さん(当時45)を亡くした。